

# BOOKS OF THE YEAR 2008

昨年一年間、みなさんはどんな本に巡り合いましたか？南部町の図書館司書8人が、2008年に読んだ本の中から特に心に残った一冊を紹介しします！未読の方は、ぜひ読んでみてください。

## 「物語の役割」



小川 洋子／筑摩書房

本を読むってなんてすばらしい、と思える本。これを読み終わったら、すぐに次の本を探しに図書館へ行きたくくなります。小川洋子さん、日曜朝のラジオ番組もお聴きのがしなく…。

(学校司書T)

## 「ラブコメ今昔」



有川 浩／角川書店

自衛官の恋をこんなに素敵に書けるのはこの作者しかいないでしょう！ドキドキ、ハラハラ恋する心は乱れます。笑ったり、泣いたり、ヘタレ、ツンデレ、有川ワールド全開です。

(学校司書T)

## 「ねこ鍋 ～みちのく猫ものがたり～」



奥森 すがり／二見書房

使わなくなった土鍋をベッド代わりに1匹、2匹…と丸くなって眠る猫たちの可愛らしいこと！東北弁の語りもいい味を出していて、猫好きさんは必見の1冊です。

(学校司書T)

## 「青年のための読書クラブ」



桜庭 一樹／新潮社

本書の舞台となる聖マリアナ学園と読書クラブの世界観は、なんとも言えないリアル感があります。学園創立者の驚くべき秘密が明かされた第2章は、誰もが興奮まちがいなし！

(学校司書I)

## 「パコと魔法の絵本」



関口 尚／幻冬舎

映画を観ずに読みました。「泣きたい時は泣けばいい。いつか必ず涙は止まる」いつも頑張らなくても弱いところを見せてもいいんだ、と思わせてくれました。

(学校司書T)

## 「冷蔵庫のうえの人生」



アリス・カイパース／文藝春秋

多忙な母と15歳の娘が交わす、冷蔵庫の上のメモに書かれた数行の言葉たち。何気ない日々と言葉が、実はとても幸せで、子どもをぎゅっと抱きしめたい本。

(町立図書館司書T)

## 「ゴールデンランバー」



伊坂 幸太郎／新潮社

平凡な主人公が、ある日突然首相暗殺の容疑者に！息もつかせぬ展開に、ページをめくる手が止まらず一気に読みました。本屋大賞受賞も納得の1冊です。

(町立図書館司書Y)

## 「モーツァルトの息子」



池内 紀／光文社

「人生はいろいろ」それぞれの国や時代の波を、様々な形で泳ぎ消えていった人々。数奇な運命を背負って生きた彼らは、何を思い何を感じ日々を過ごしてきたのだろうか。

(町立図書館司書N)